

平成27年度(平成28年産)麦類作況試験生育状況(古川農試)[2月10日調査結果]

1. 供試品種および耕種概要

・供試品種

	早生	中生
六条大麦	シュンライ	ミノリムギ
小麦	あおばの恋	シラネコムギ ゆきちから

- ・播種期：10月20日
- ・播種量：0.9kg/a（ドリル播き，条間25cm）
- ・施肥：尿素磷加安777号
(N：0.8kg/a, P₂O₅：0.8kg/a, K₂O：0.8kg/a)
- ・土づくり肥料等：粒状苦土石灰 6kg/a

- ・排水対策：明渠，暗渠及び弾丸暗渠2.0m間隔
- ・ほ場条件：沖積埴壤土 転換初年目（前作水稲）

2. 気象概況[12月中旬～2月上旬]（表1，図1参考）

- ・平均気温は，12月中旬，1月中旬はかなり高く，12月下旬，1月下旬～2月上旬は平年並。

- ・降水量は，12月11日に前線を伴った低気圧の影響で大雨となり，1月18～19日にかけて本州の南岸を通過した低気圧の影響でまとまった雪となった。仙台の初雪は1月11日で平年より34日，昨年より36日遅く最も遅い観測となった。

- ・日照時間は，1月上旬下旬がやや少なかったものの他の期間はおおむね平年並みからやや多かった。

表1 気象経過(12/20～2/10)古川アメダス

	平均気温 (°C)		積算降水量 (mm)		積算日照時間 (hr)	
	本年	平年差	本年	平年比	本年	平年比
12月中旬	5.4	2.9	43.0	339%	41.4	117%
12月下旬	2.6	1.0	11.5	78%	45.3	107%
1月上旬	3.0	2.6	3.0	20%	37.0	95%
1月中旬	-0.2	0.0	36.0	277%	48.4	119%
1月下旬	-0.3	0.1	8.0	58%	44.5	91%
2月上旬	-0.2	-0.1	1.0	8%	55.4	115%

注) 平年差(比)はアメダス平年値との比較

3. 生育概況

1) 2月10日現在の生育状況（表2）

- ・草丈は平年より長い。
- ・葉数はミノリムギ，シラネコムギで平年より1葉程度早く，他は0.2～0.4葉進展している。
- ・茎数は大麦では平年比9割台であるが，小麦では並から多くなっている。
- ・1年半ばから生育は鈍ったが，それまでの，高温，多照傾向により生育は進んでいる。
- ・現時点での障害等は特に認められない。

2) 幼穂分化状況（表3）

- ・大麦の幼穂長は1.5mm程であり，平年より長く幼穂形成始期に達している。
- ・小麦の幼穂長は早生のあおばの恋で1.6mm程度と大麦並に進んでいる，その他でも0.5mmを越え平年より0.2mm程度長くなっている。
- ・品種，生育状況によっては穎花分化期に達したほ場もあると考えられる。

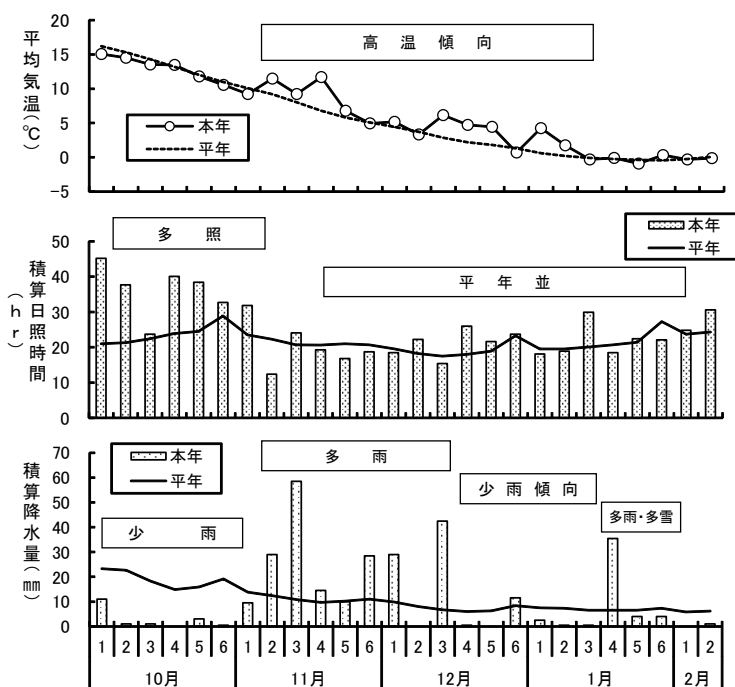


図1 半月別気象経過（古川アメダス）

表2 古川農試ほ場の生育状況(2月10日現在)

品種	草丈			茎数			葉数		
	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
シュンライ	12.0	124	109	741	95	90	5.6	0.2	0.4
ミノリムギ	12.2	124	100	797	108	94	6.8	2.0	1.6
あおばの恋	16.3	122	125	740	102	102	5.6	0.7	0.6
シラネコムギ	12.7	104	101	920	110	117	6.4	0.9	1.1
ゆきちから	11.5	107	95	793	98	104	6.2	1.0	0.8

表3 古川農試ほ場の幼穂分化状況(2月10日現在)

品種	幼穂長			幼穂分化 程度	幼穂形成始期 (月/日)	
	本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)		本年	平年
	シュンライ	1.52	0.63		0.43	VII後～VIII
ミノリムギ	1.42	0.67	0.51	VII後～VIII	2/4	2/15
あおばの恋	1.58	0.71	0.64	IX前～IX中	12/26	2/22
シラネコムギ	0.55	0.17	0.22	V～VII前	—	3/16
ゆきちから	0.54	0.16	0.19	V～VII前	—	3/21

※越冬前目標生育量:葉齢4～5枚,
分けつ1～2本,茎数400～500本/m²

- 注1) 平年比(差)は過去5か年(「あおばの恋」は平成22年度から供試のため過去4か年)の平均値との比較。
 2) 幼穂形成始期の平年値は過去5か年(「あおばの恋」は平成22年度から供試のため過去4か年)の平均値。
 3) 幼穂形成始期:幼穂長1mmに達した日。
 4) 幼穂分化程度:V期末満は省略した。

[参考] 麦類の幼穂分化程度と幼穂長(mm)

品種	苞分化期	小穂分化期				穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X	
小麦(シラネコムギ等)	0.5	0.5～0.6	0.6～1.0	1.0～1.2	1.2～4.0	4.0～5.0	
大麦(シュンライ等)	0.5	0.5～0.7	0.7～1.5	1.5～2.0	2.0～4.0	4.0～5.0	

注) 幼穂分化程度はI～Xの10期に区分されるが、V期以前は外部形態による判定が困難であるため、省略した。
 また、厳密にはVII期は前・後期に、IX期は前・中・後期に区分される。

平成27年度(平成28年産)麦類生育調査ほ生育状況〔2月10日調査結果〕

表4 麦類生育調査ほ耕種概要

担当普及 センター	品種名	実施場所	畑転換 年数	排水対策 (明渠、暗渠等)	播種期 (月/日)	播種量 (kg/a)	播種様式	条間 (cm)
大河原	シュンライ	大河原町	17	暗渠	11月1日	1.0	ドリル播き	30
	ミノリムギ	大河原町	17	暗渠	11月5日	1.0	ドリル播き	30
仙台	シュンライ	大和町	14	明渠、暗渠	10月19日	1.0	ドリル播き	30.9
大崎	シラネコムギ	大崎市古川沢田	2	暗渠、補助暗渠	10月16日	1.0	ドリル播き	15.1
美里	シラネコムギ	鹿島台	2	明渠、暗渠	10月22日	1.2	ドリル播き	22
	ゆきちから	涌谷	1	暗渠	10月29日	1.1～1.2	ドリル播き	24
登米	あおばの恋	登米市	20	暗渠	11月22日	1.4	ドリル播き	20※
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	1	暗渠、弾丸暗渠、明渠予定	10月11日	1.0	ドリル播き	30
	ミノリムギ	石巻市桃生町	1	暗渠、弾丸暗渠、明渠予定	10月14日	1.0	ドリル播き	30
	シラネコムギ	石巻市桃生町	確認中	なし	10月9日	0.9	ドリル播き	22.5

※: 1月5日調査

表5 麦類生育調査ほ生育状況(2月10日現在)

担当普及センター	品種名	実施場所	播種期(月/日)	出芽良否	草丈			茎数			幼穂長(mm)
					本年(cm)	前年比(%)	平年比(%)	本年(本/m ²)	前年比(%)	平年比(%)	
大河原	シュンライ	大河原町	11/1	良	10.9	163	149	647	226	209	1.7
	ミノリムギ	大河原町	11/5	良	10.6	186	154	472	200	152	0.8
仙台	シュンライ	大和町	10/19	良	15.3	199	-	518	373	-	2.0
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	10/16	良	13.6	239	138	1601	299	268	0.5
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	10/22	良	10.2	98	128	1184	189	283	0.3
	ゆきちから	涌谷町	10/29	良	11.5	134	144	597	212	221	0.2
登米	あおばの恋	登米市豊里町	11/22	良	7.2	89	90	290	120	129	0.14
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	10/11	良	14.6	125	138	425	102	82	1.8
	ミノリムギ	石巻市桃生町	10/14	やや良	17.0	163	171	518	125	97	1.3
	シラネコムギ	石巻市桃生町	10/9	良	20.1	179	148	793	103	76	0.4

注1) 出芽良否は達観で判断(良, 中, 不良の3段階を基本とする)。

2) 平年比は過去5か年の平均値との比較。

3) 仙台「シュンライ」は平成25年度から実施場所が変更となったため、平年値はない。

担当普及センターのコメント

1) 大河原

- ・播種以降、高温傾向で推移していることから、生育は順調に進み、草丈はシュンライ、ミノリムギともに平年比約150%、茎数はシュンライで平年比209%、ミノリムギで平年比152%である。また、雑草の発生も少なく、病害の発生等も見られない。

2) 仙台

- ・生育量(草丈, 茎数)は平年と比べ多く、生育ステージ(幼穂長)も平年と比べ早く進んでいる。
- ・幼穂形成始期(幼穂長1mm)を2月4日に迎え、現在 幼穂形成期追肥適期に入っている。
- ・ハクチョウによる食害が多く確認されている。

3) 大崎

- ・暖冬傾向のため生育は旺盛であり、茎数は平年の2.7倍、草丈は1.4倍となっている。幼穂は、昨年12月から形成し始め、現在は幼穂長0.5mmと平年より生育は進んでいる。積雪は少なく、一部、ガンやハクチョウの食害も見られる。

4) 美里

- ・生育は旺盛。積雪もあったことから、生育の進展は緩慢となっている。シラネコムギでは、分けつの発生が旺盛。

5) 登米

- ・出芽良好であったが、播種遅れから茎数は少ない。年明け以降生育停止し、現在2葉期ごろ。近隣ほ場ではハクチョウ等の食害が見られるが、調査ほ場ではほとんど見られなかった。

6) 石巻

- ・1月中旬以降、気温が平年並に低く、日照時間も少なめに経過したことから、生育は停滞気味。草丈は平年を上回るが前回調査と同程度。茎数は大麦でやや増加したものの平年並~やや少なく、シラネコムギでは前回調査からほぼ変わらず、平年より少ない。幼穂長は大麦が平年より長く、シラネコムギは同程度。
- ・シュンライなど生育の進んでいるほ場ほど下位葉の黄化が目立つ。